

※※2016年4月改訂(第4版)
 ※2008年6月改訂(第3版)

ビタミンC剤
※アスコルビン酸「ヨシダ」

日本標準商品分類番号

87314

日本薬局方
アスコルビン酸
 Ascorbic Acid
 ビタミンC

承認番号	(61AM)3372
薬価収載	1986年6月
販売開始	1986年9月
再評価結果	1977年5月

貯法：遮光した気密容器に入れ室温保存
使用期限：ラベル等に記載

【組成・性状】

1. 組成

本剤1g中、日局アスコルビン酸1gを含む。

2. 製剤の性状

本剤は白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはなく、酸味がある。

本剤は水に溶けやすく、エタノール(95)にやや溶けにくく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。

【効能・効果】

1. ビタミンC欠乏症の予防及び治療(壊血病、メルレル・パロー病)
 2. ビタミンCの需要が増大し、食事からの摂取が不十分な際の補給(消耗性疾患、妊産婦、授乳婦、はげしい肉体労働時など)
 3. 下記疾患のうち、ビタミンCの欠乏または代謝障害が関与すると推定される場合
 - 1) 毛細管出血(鼻出血、歯肉出血、血尿など)
 - 2) 薬物中毒
 - 3) 副腎皮質機能障害
 - 4) 骨折時の骨基質形成・骨癒合促進
 - 5) 肝斑・雀卵斑・炎症後の色素沈着
 - 6) 光線過敏性皮膚炎
- 3.の効能に対して、効果がないのに月余にわたって漫然と使用すべきでない。

【用法・用量】

アスコルビン酸として、通常、成人1日50～2,000mgを1～数回に分けて経口投与する。
 なお、年齢、症状により適宜増減する。

【使用上の注意】

1. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

消化器	悪心・嘔吐・下痢等(頻度不明)
-----	-----------------

2. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

3. 臨床検査結果に及ぼす影響

- (1) 各種の尿糖検査で、尿糖の検出を妨害することがある。
- (2) 各種の尿検査(潜血、ビリルビン、亜硝酸塩)・便潜血反応検査で、偽陰性を呈することがある。

※※【薬物動態】

アスコルビン酸はヒト、サル、モルモットではビタミンとして必要とするが、他の動物では体内で生合成される。摂取されたアスコルビン酸は消化管から速やかに吸収され、特異的な能動輸送機構により各組織に運ばれ貯留されと考えられる。組織中のアスコルビン酸は大部分還元型として存在するが、腎や腸間膜の静脈血中では全アスコルビン酸の約80%が酸化型(デヒドロアスコルビン酸)となっているという。還元型と酸化型の相互変換は生体内で可逆的である。

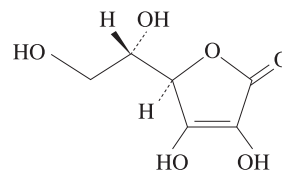
デヒドロアスコルビン酸は生体内で加水分解を受けて不可逆的にジケトグルン酸となり、更に脱炭酸され、L-リキソン酸とL-キシロン酸となって分解されていく。これらの反応は肝などで酵素的に起こり動物種による差が著しく、ヒトでの分解は比較のおそい。アスコルビン酸の代謝産物としてシュウ酸が尿中に排泄されることが知られているが、これはジケトグルン酸が非酵素的にシュウ酸とL-トレオン酸になるのであると考えられている。しかしアスコルビン酸をヒトに大量に投与した場合、未変化体のまま尿中に速やかに排出され、尿中のシュウ酸はほとんど増加しないという結果が得られている。生体内に入ったアスコルビン酸の半減期は、ヒトでは16日、サルで8日、モルモットでは4日である。健康成人に300mgを経口投与時の血中濃度は3時間後にピークに達し、以後漸次減少する。尿中排泄速度は4時間後に最高値に達し、9時間後に最初の値に戻る。

【薬効薬理】

代表的な欠乏症が壊血病であり、出血傾向の増大、骨・歯牙の発育遅延、抗体産生能や創傷治癒能の低下などを起こす。本剤の投与はこれらの疾患や症状に効果があるが、生理的意義や作用は十分明らかではない。コラーゲン生成への関与、毛細血管抵抗性の増強や血液凝固時間の短縮などによる出血傾向の改善、副腎皮質機能への関与(ストレス反応の防止)、メラニン色素生成の抑制などが報告されている。

【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：アスコルビン酸 (Ascorbic Acid)
 化学名：L-threo-Hex-2-enono-1, 4-lactone
 分子式：C₆H₈O₆
 分子量：176.12
 構造式：



【包装】

500g

※※【主要文献】

第十六改正日本薬局方解説書 C-63 廣川書店(2011)

【文献請求先】

吉田製薬株式会社 学術部
 〒164-0011 東京都中野区中央5-1-10
 TEL 03-3381-2004
 FAX 03-3381-7728



製造販売元
吉田製薬株式会社
 埼玉県狭山市南入曽951